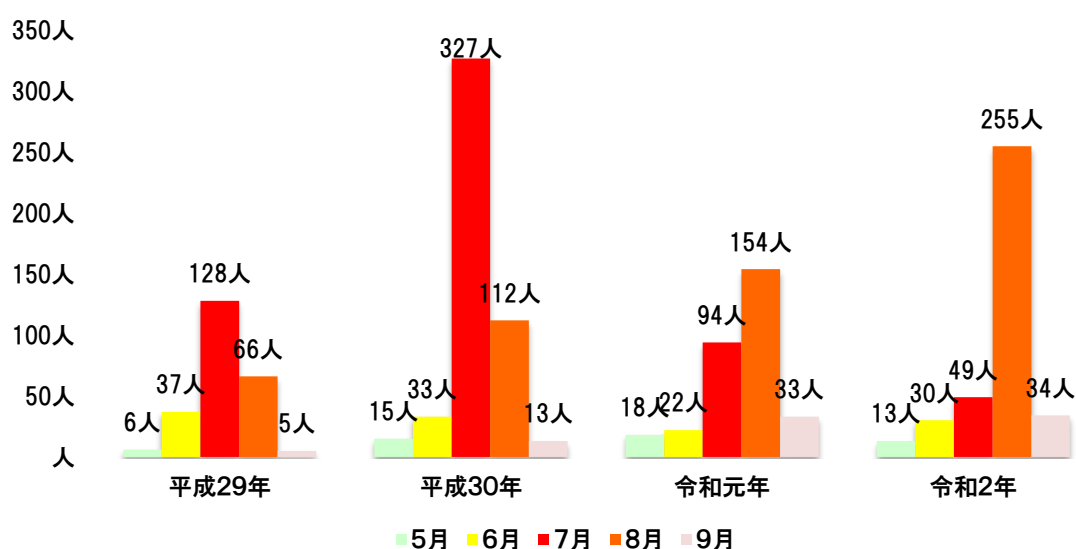


令和2年中の熱中症による救急搬送状況

枚方寝屋川消防組合の令和2年5月1日から9月30日までの熱中症（熱中症疑いを含む。）による救急搬送人員は381人（枚方市225人、寝屋川市156人）で、前年の同期間の搬送人員324人（枚方市197人、寝屋川124人、その他3人）と比較して大きく増加（枚方市28人増加、寝屋川市32人増加）しました。

月別の熱中症による救急搬送人員（平成29年から令和2年まで）

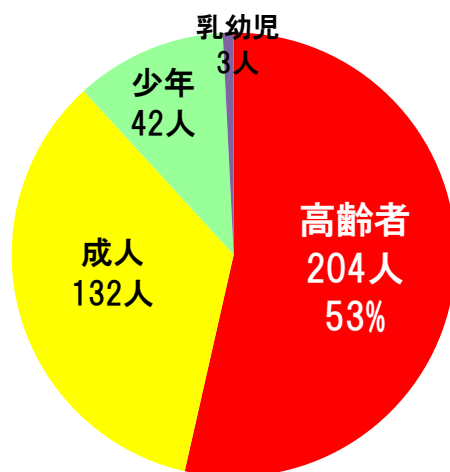
	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
5月	6人	15人	18人	13人
6月	37人	33人	22人	30人
7月	128人	327人	95人	49人
8月	66人	113人	155人	255人
9月	5人	13人	34人	34人
合計	242人	501人	324人	381人



年代別

年代別では、高齢者（65歳以上）が204人で全体の救急搬送人員の約半数約50%）を占めています。

年齢区分別救急搬送状況（令和2年5月1日から9月30日）



ポイント

- ①高齢者の方は温度に対する感覚が弱くなるため、自分で暑さやのどの渇きに気づきにくいというえ、体調の変化も我慢をしてしまうことがあります。周りの人が体調をこまめに気かけ、予防対策を促してあげましょう。
- ②乳幼児は、体温調節機能が十分に発達していないため大人よりも熱中症にかかりやすいといわれていますので、より一層の熱中症予防・対策をおこなう必要があります。

部屋の 温度を確認!!



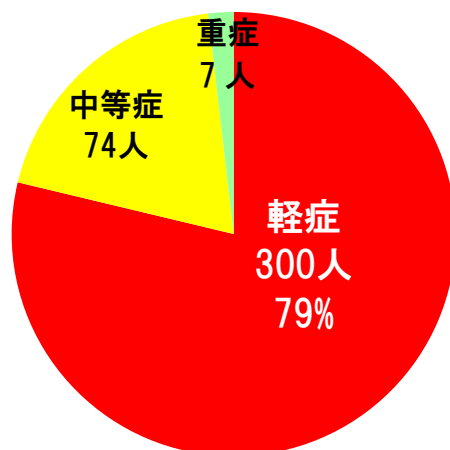
周囲の人にも気配りを



症度別

症度別では、軽症が300人で全体の救急搬送人員の約79%を占めています。次いで、入院の必要がある中等症が74人、重症が7人となっています。

症度別救急搬送状況（令和2年5月1日から9月30日）



ポイント

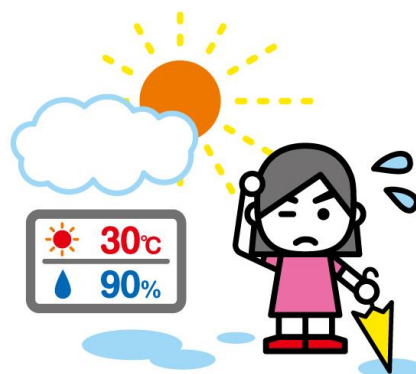
「熱中症かな？」と思うようなサインがあったときは、すぐに応急処置を行い、病院などの医療機関へ連れていきましょう。

救急車を待っているあいだにも、現場で応急処置をすることで症状の悪化を防ぐことができます。

応急処置のポイント

- ①涼しい場所へ移動しましょう
- ②衣服を脱がし、体を冷やして体温を下げましょう
- ③塩分や水分を補給しましょう

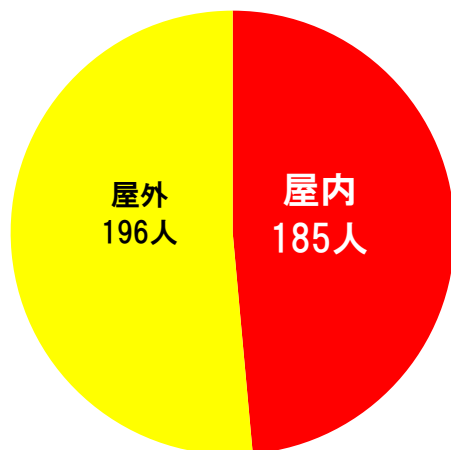
湿度が高いときは注意



発生場所別

発生場所別では、屋内が185人、屋外が196人となっています。

発生場所救急搬送状況（令和2年5月1日から9月30日）



ポイント

住居、学校など屋内で危険な環境は、「熱気や湿気が溜まりやすく、暑い場所」で、エアコンのない閉め切った部屋や風呂場、洗面所などです。

また、熱中症になりやすいタイミングについては、水分が失われやすい入浴後、閉めきった暑い場所での作業が長時間続いた場合などが挙げられます。

予防ポイント

- ① 温度計で室温を管理し適度にエアコンや扇風機を使用しましょう
- ② 風通しをよくしましょう
- ③ 喉が渇いていなくても意識的に水分を補給しましょう

